JAPRS

JAN .2013 No.1

新春号

社団法人　日本音楽スタジオ協会

目　次

会長年頭挨拶 1

前田憲男コンサートvol.10
「ライブレコーディング見学会＆コンサート」レポート 2

平成24年度通常総会＆懇親会レポート 4

第13回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート 6

第2回大阪地区Pro Toolsセミナーレポート 7

『早稲田/東宝 芸術科学センター見学会』レポート 9

第11回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告 12

2012年JAPRS企業説明会レポート 13

第3回東京地区Pro Toolsセミナーレポート 15

第9回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告 18

JAPRS高音質配信セミナーレポート 19

第19回日本プロ音楽録音賞授賞式レポート 23

第19回日本プロ音楽録音賞審査委員講評 33

「音の日のつどいパーティー」レポート 42

会員動向 45

会長年頭挨拶

(社) 日本音楽スタジオ協会
会 長　内 沼　映 二

新年明けましておめでとうございます。
日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

年頭に際し、まず一昨年の東日本大震災に被災され、様々な困難に立ち向かわれている地域の皆様の一日も早い復興を祈念いたします。

さて、JAPRSは本年社団法人として23周年を迎えることとなりますが、昨年11月には、本年4月1日付での認可を目指し、一般社団法人への移行申請を実施致しました。この申請が認められた場合は、一般社団法人として新たにスタートを切る年となります。

昨年の音楽スタジオ業界と致しましては、この数年来の下降傾向に一定の歯止めがかかり、ようやく３年前の水準に多少復した傾向にありましたが、本年は明確な上昇傾向に転じることを期待したいと思います。

また、昨年のソフト面に関する新たな動向としては、従来のパッケージ商品の音源制作に加え、ハイレゾ音源による高音質配信の活性化傾向と、Blu-rayに関する伸長への期待が感じられる年でもありました。

我々音楽スタジオ業界と致しましては、このようなソフト面の変化のプロセスが続く中、より以上に様々な制作環境に対応する集団として、更に良質な音源の発信に寄与することを第一とし、前進する所存です。

本年も会員の皆様をはじめ、関係各位のご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

前田憲男コンサートvol.10
「ライブレコーディング見学会＆コンサート」レポート

株式会社 青葉台スタジオ
粟飯原　友美

平成24年５月22日、浜離宮朝日ホールにて「前田憲男コンサートVol.10」（Pf前田 憲男、WB川村 竜、Dr齋藤 たかし）のリハーサル見学会が開催されました。
当日は、13：30、楽屋口集合し、すぐにホール入りしました。
最初は、ホールにてピアノ調律が終わるまでの間、ホールの中を移動しながら、調律のピアノの音を客席各所でチェックしつつ、ホール客席内で待機。
エンジニアは永井秀文さん、そして、音響芸術専門学校の生徒さん達による録音との対決という形を取るということで、永井さん、生徒さん、セーフティー扱いのPro Toolsという計３台でのレコーディングでした。

コントロールルームは、ステージ下手側のステージ裏ロビースペースに設置。

コントロールルーム使用機材
・Mixier　STUDER 169、269 各１台
　　（永井さん、学生さんがそれぞれステレオ一発録音）
・Recorder　Roland R44、
　　Pro Tools 003 Rack（Safety Rec）
・ Speaker　 YAMAHA NS-10M

使用マイク
・ワンポイント　SCHOEPS CMC62H
・ピアノ用　AKG C414　２本
・ベース用　NEUMANN U87
・ドラム用　キック　Audio Technica ATM25
　　スネア　SHURE SM57
　　ハイハット　AKG C451
　　トップ　AKG C460　２本

調律が終わった頃、ドラムのセッティングと共に、マイクのセッティングも始まり、ワンポイント、ピアノ、ベース、ドラムと順次マイクをセット、メンバーが全員集まったころ、再度、楽器位置の確認をし、ピアノを少し移動。
その間、マイクの位置を少しずつ修正し、準備が整うと、リハーサルが開始されました。

浜離宮朝日ホールは、室内楽ホールで、今回のトリオ編成には、ちょうど良いサイズのホールでした。全体的な音の印象は、ステージ上にしっかり音がまとまっていて、かつ、残響は繊細で心地よい響きでした。
リハーサルは短い時間で、全曲でなく抜粋だったようですが、その間、ホール各所の響きをチェックしながら演奏を聴けたのは、とても有意義な時間でした。

今回のライブレコーディングに際し、特に永井さん側からの説明はありませんでしたが、質問には何でもお答え致しますとのことで、一段落した後、少し、お話しをさせて頂きましたが、卓上で、大きくEQ等使用することはなく、音決めはマイクのセレクトとマイクの位置だけで決めていること、あとは、バランスを取るだけですとのことで、リハ中の音をコントロールルーム側で聴いた印象では、とても、ナチュラルで、ホール内で聴いていたバランスと遜色ないように感じました。

その後、本番まで拝聴させて頂きましたが、前田憲男さん、他メンバーの方々、本当に素晴らしい演奏で、お客様の皆さんも、とてもご満悦な様子でした。

最後に、見学会には、若手のエンジニアの方が見受けられませんでしたが、このようなホールのサウンドを体験出来る貴重な機会には、もっと積極的に参加された方が良いと感じました。
永井さん、他、スタッフの方々、ありがとうございました。

平成24年度通常総会＆懇親会レポート

＜通常総会＞

５月29日（火）、JAPRSは港区元赤坂の明治記念館１Ｆ「若竹の間」において、平成24年度通常総会を開催し、平成23年度の事業報告書（案）決算報告書（案）、平成24年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）、役員全員任期満了による新役員の選出、一般社団法人への移行に伴う定款（案）、新規入会金及び会費徴収基準（案）について正会員に諮り、全ての議案が異議なく全員一致で承認された。

はじめに、佐藤事務局長が定足数の確認を行い、委任状を含む40名の出席数を確認（定足数）、総会の開会を宣言した。

通常総会

続いて内沼会長が議長に当たり、議事録署名人として専務理事の清水　三義 氏、常任理事の広岡　淳利 氏の両名が選出された。

次に石野副会長より第１号議案「平成23年度事業報告書（案）」及び佐藤事務局長より「収支決算報告書（案）」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認された。

続いて石野副会長より第２号議案「平成24年度事業計画書（案）」及び佐藤事務局長より「収支予算書（案）」について説明が行われ、審議の結果、第１号議案と同様に全員一致で承認された。次に議長より第３号議案「役員全員任期満了による新役員の選出」について経過が説明され、同様に全員一致で承認された。続いて議長より第４号議案「一般社団法人への移行に伴う定款案の承認について」佐藤事務局より説明させた後、同様に全員一致で承認された。次に第５号議案「新規入会金及び会費徴収基準（案）の承認について」説明後、全員一致で承認され、最後に議長である内沼会長が閉会を宣し解散した。

＜懇親会＞

通常総会終了後、18：30より明治記念館１Ｆ「末広の間」において、正会員、賛助会員及び招待者を含む72名が集い、懇親会が開催された。

内沼 映二 会長

司会進行は運営委員会の江下副委員長（バーニッシュ）と茂木副委員長（個人会員）の２名が担当し、内沼会長の開会の挨拶に続き平成24・25年度の新役員が紹介された後、当協会の所管官庁である経済産業省商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐　望月　孝洋氏により来賓代表として挨拶が述べられた。

ご来賓代表 望月 孝洋 氏

続いて乾杯となり、恒例により昨年８月から個人会員として新たに入会された 深田　晃氏により乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなる。

乾杯の発声 深田 晃 氏

会場内は自然に何組かの歓談の輪が出来上がり、和やかな雰囲気になりました。

2012 懇親会

萩原 一哉 氏

更に歓談が続くうち中締めの時間となり、（株）ソナ 萩原一哉氏による挨拶が行われ、本年の懇親会も無事に終了となりました。

スタッフとして開宴前より準備にご協力いただいた会員の皆様、有難うございました。

第13回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート

平成12年第１回目を開催して以来、今年で13年目を迎えたのが、この新プロ・エンジニア養成セミナーです。

専門学校委員会の主催により実施されているこのセミナーは、JAPRS賛助会員加盟専門学校18校の２年生以上を対象として、東京地区、大阪地区正会員スタジオの協力により継続されているもので、プロのレコーディングスタジオにおけるセッション開始前のスタジオセットアップを体験させることを主目的としています。今回は、６月９日（土）～６月16日（土）の期間で東京地区１日計３回、大阪地区１日１回開催。

実施内容

①アシスタントエンジニアによるスタジオブースの説明
②アシスタントエンジニアからのアドバイス
③ミックスダウンのセットアップ
④ミックスダウン・デモ
　2chバランス・2chメーターの確認　EQの使用方法　DYN・INS系の使用方法
　クロス・パッチ等　AUX系のエフェクタ・バランス トータル処理の方法

東京地区会場（６月９日（土）於：サウンドインスタジオBst）
　参加者：９校　44名
　エンジニア：吉田　保 氏
　アシスタントエンジニア：梅田　佳代子 氏

サウンドインスタジオBst

大阪地区会場（６月16日（土）於：スタジオグルーヴAst）
　参加者：３校　15名
　エンジニア　吉田　保 氏
　アシスタントエンジニア：松嶋　毅之 氏

スタジオグルーヴAst

タイムスケジュール

東京会場：サウンドインスタジオBst
　６月９日（土）
　　１回目　10：00～12：15
　　２回目　13：00～15：15
　　３回目　15：30～17：45

大阪会場：スタジオグルーヴ Ast
　６月16日（土）
　　１回目　13：00～15：15

第２回大阪地区Pro Toolsセミナーレポート

専門学校ＥＳＰエンタテインメント
サウンドクリエイター科　学科長　今村　典也

2012年6月15日（金）にキャットミュージックカレッジ専門学校に於いて開催されました。

今回も（株）サンミューズ　君塚　隆志氏と赤尾　真由美氏を講師としてお迎えし、専門学校の学生対象のセミナーと録音スタジオ及びＭＡスタジオのエンジニアの方々を対象とした一般向けセミナーの2部形式で行われました。

専門学校向けセミナーでは専門学校ＥＳＰエンタテインメント、キャットミュージックカレッジ専門学校、ビジュアルアーツ専門学校・大阪の3校の学生39名が参加、一般向けセミナーには21名が参加されました。

今回のセミナーは2010年10月に行ったPro Toolsセミナーをベースにして、Mac OSのVerによる設定の違いと Pro Tools HD9のサポートとトラブルシューティング及び新たに発表された Pro Tools HD10 と HDXカードの特徴を理解する為のセミナーとなりました。

○『Pro Tool s とPCの基本設定とトラブルシューティング』

まずは自分の使っているMacのことをきちんと理解しようと言うことで、Macの「詳しい情報を見る」という項目からスタートしました。OSのVer確認や本体のシリアルナンバー、プロセッサのクロックスピードやメモリ情報、起動ハードディスクの情報などを確認する方法をレクチャーしていただきました。その後、「システム環境設定」では推奨するフォントサイズや言語とテキストの設定、バックグラウンドで動作するプログラムである「スクリーンセイバー」「スポットライト」「スリープ設定」「アップデートの確認」などを「OFF」に設定し、Pro Toolsには対応していない「タイムマシン機能」も「OFF」にすることでPro Tools 以外のプログラムでCPUやメモリに負荷をかけない、安定した環境設定の構築方法を中心にお話していただきました。

トラブル対策としては、まずPCのリセット方法や「ライブラリー」からいくつかの設定を破棄しての再起動による、初期状態からの起動について説明がありました。

また、Mac Proの世代の違いにより、Pro Tools HDXが使用できないものもあるため、Mac Proの世代の見分け方や特徴、世代による仕様の違いなどについての解説がありました。

OSに関してもVerによる対応状況について解説があり、実際、教えてもらうまで知らなかったことも多くあり、非常に役に立つ情報を得ることができました。

管理編では、Mac OSやPro Toolsソフトウェアのアップグレード時の注意事項や既存のバージョンとの併用方法、iLokやプラグインの管理方法などの説明が行なわれました。

さらに、トラブルが多く報告されているMac Proのビデオカードに関しては、予備パーツを用意しておくことでトラブル時の対応に役立つなど、ディーラーだからこそ知り得る情報の開示などもしていただけました。

○Pro Tools HD10とHDXカードの特徴と新機能

ここからは新たに発表されたPro Tools HD10とHDシリーズの解説となりました。

おもに192シリーズとHDシリーズの違いとして、DSPカードの仕様の差や、オンボード上のメモリが増えたことによるレイテンシー問題の大幅な改善など、様々な特長について解説がありました。

ソフトウェアに関してはPro Tools HD9、HD10ともMac OS　Lionに対応したことがアナウンスされ、新しく発表されたHD10よりキャッシュメモリを録音に割り当てられるようになったなど、新機能に関する解説と、現状でのプラグインの対応状況についても報告が行なわれました。

最後にHDシリーズの実機を実際に動作させての検証と共に、192 I/Oとのサウンドの聞き比べなども行なわれ、非常に充実した内容となりました。

○まとめ

今回は、ベーシックな設定やトラブルシューティングだけでなく、今後スタジオや学校も対応していかなければならない、新しいPro Toolsシステムについて多く学ぶことが出来ました。

Pro Tools HD10が事実上、192 I/Oシリーズが使える最後のVerとなるため、業種に関わらず新しい対応をせまられることになっていくと思います。そのための事前勉強会としても大変有意義な内容となりました。

今後、このようなセミナーが定例で開催されることで、スタジオ業界でも情報の共有を図り、ともに技術的な向上に繋げていくことが出来ればと思います。

このたびは、わざわざ東京からお越しいただいた（株）サンミューズの君塚　隆志氏と赤尾　真由美氏には心より感謝申し上げます。また、STUDIO GROOVEの井筒氏をはじめ、この大阪地区セミナー開催に尽力いただいた関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。

『早稲田/東宝 芸術科学センター見学会』レポート

日東紡音響エンジニアリング株式会社
音空間事業本部 企画営業部
音響設計グループ　崎山 安洋

平成24年6月20日（水）、東京都世田谷区成城にある東宝スタジオ内に移転した早稲田/東宝 芸術科学センターの見学会が実施された。参加者は、JAPRS正会員・個人会員・賛助会員、合わせて33名。リニューアルされた東宝スタジオ ポストプロダクションセンター２の一郭に、早稲田/東宝 芸術科学センターが位置している。

見学会は、講演と映像編集デモがあり、講演は東宝スタジオダビングステージ２で、映像編集デモはRED STUDIOで実施された。

講演の第１部は、（株）東宝スタジオサービス 多良 政司氏による「フィルムからデジタルへの変化に伴う制作ワークフローから上映に至る変化について」、第２部は（株）ピクチャーエレメント 大屋 哲男氏、齋藤 精二氏による「芸術科学センターのネットワーク化を含めたワークフローの全体像」を演題とするものであった。

東宝スタジオサービス 多良氏の講演概要を報告する。

映画上映がフィルムからデジタルへと移行し、デジタルシネマの波がアメリカを中心に一気に押し寄せているのが現状である。2013年からは、米国メジャー映画はDCP（Digital Cinema Package）のみのデジタル配給となる。デジタルシネマ上映には2K/4Kプロジェクターが必要になるが、NAB2012 デジタル・シネマ・カンファレンスの報告で、世界の123,000スクリーンの内、約67%の70,000スクリーンがデジタル化されている。日本でも、約70%がデジタル化され300本規模の映画作品の内、おおよそ200本強がDCP、10～50本程度がフィルム上映され、メジャー系列の映画館ではほぼ100%で、本格的なデジタルシネマ時代となりつつある。

DCPは、DCI規格（デジタルシネマの技術仕様）に準拠したもので、コンテンツ保護用に暗号キーＫＤＭ（Key Delivery Message）が付加されている。DCI（Digital Cinema Initiatives）は、米国メジャーのスタジオ７社が設立した会社で、デジタルシネマの技術仕様をハリウッドのローカル仕様としてまとめている。

デジタルシネマの上映は、2K（24fps/48fps）/4K（24fps）であるが、撮影には4K以上のデジタル高解像度カメラが使われることもある。フィルム撮影した素材も、スキャニングしデジタル画像処理が行われる。デジタルシネマとＥシネマは違うカテゴリーで、デジタルシネマはDCI規格に準拠して製作され、Ｅシネマはブルーレイなどで上映されることが多い。

デジタルシネマの音声データは、48kHz/96kHz、24bit、非圧縮で、チャンネル数16chの内、障害者用2chを差引いた14chが使え、標準が5.1chで、最大が13.1chである。

デジタルシネマでは、3D（立体）映画の上映が比較的簡単であり、XpandD、

REAL-D、Dolby3Dデジタルシネマ、マスターイメージなどの3D上映が広がりつつある。3Dではシルバースクリーンが、2Dではホワイトスクリーンが使われることが多い。

3D映画の上映に伴い、3D音響の制作要求が出てきている。AURO-3D（ベルギー）、imm3D（スペイン）、DolbyATOMOS（アメリカ）などの新しいフォーマットが提案されている。これらは、天井面にも複数スピーカが配置され、上下方向の音響表現が可能となっている。（現在immサウンドはドルビーに吸収合併されている。）

映画音楽は、劇場の大空間での再生を目的とし、同等の大きさを持つダビングスタジオでミックスされている。小さな音から大きな音まで、ダイナミックレンジを十分に生かした表現が可能である。ミックス作業では、音素材をパートごとにまとめたステムで貰うことが増えている。映画用マスターをビデオ用マスター（パッケージ用）とする場合、差し込みタイトルとのレベル差を考慮して、６～８dBのレベル補正をしている。何もしないものもある。放送用マスターは、2012年10月から実施されるラウドネス（LKFS）のレベル規制に合わせてレベル調整を行なうが、ダイナミックレンジをどの程度とれば良いかを含め、模索中である。

ピクチャーエレメント 大屋氏の講演概要を報告する。

2003年公開の篠田 正浩監督「スパイ・ゾルゲ」が、撮影から編集までテープレスでハードディスクに記録、日本映画初のデジタルシネマ作品である。CG等も、埼玉県本庄市の早稲田大学芸術科学センター（成城に移転前）で製作された。当時、最先端のデジタル技術を駆使し、HD24P、10bit（非圧縮）で撮影された作品である。デジタルアーカイブはフィルム化して保管。

見学参加者に配布された芸術科学センターの紹介パンフレットに記載されているデジタルシネマワークフローに基づき、製作プロセスを追って、解説を受けた。

デジタル撮影には、高解像度のデジタルカメラが使われる。代表的カメラに、RED ONE、RED EPIC、アレックスなどがある。国産ではキャノンのカメラが低価格で交換レンズもあることから、今後、普及の増加が予想される。デジタルカメラ撮影の背景には、フィルムカメラの生産修了と映画用ポジ・ネガフィルムの生産中止によるところがある。（本年一杯でフジフィルムが生産中止）フィルムのカメラマンでも、粒子感などフィルムとデジタルの違いが判別できなくなっている。デジタルカメラは、それぞれ記憶方法（メディア）が違い、データ処理も異なる。その結果、サーバーへのコピーの仕方も異なり、データチェックが重要である。

ワークメディアを作成し、AVIDやファイナルカットプロで編集、VFX作業で不用なものを消し、CGや実写を合成する。

本編集では、オリジナルデータをオフライン編集どおりに並び替えを行う。オフラインと本編集の境目が無くなってきている。通常、１作品の巻割が７巻ほどとなり、グレーディングは、１日で１巻ほどの作業を行う。プレグレーディングすれば、７日を３～４日に短縮される。通称、カラコレと呼ばれていたものは近年グレーディングと呼ばれ、色調整から色情報の調整作業までが行なわれる。

DSM（Digital Source Master）は基になるデータで非圧縮、映像データと音声デー

タは分離。ここから、フィルム原版やDCP用のマスターDCDM（Digital Cinema Distribution Master）などが作られる。DCDMのデータも重く、音声データも分離している。DCDMからJPEG2000で約1/8～1/10に圧縮され、データが軽い劇場上映用データとしてDCPとなる。

会場をRED STUDIOに移し、デジタル編集などの様子を見学。
もう一度、ダビングステージに戻り、質疑応答と補足説明など。
芸術科学センターおよび東宝スタジオは、東宝スタジオの撮影所内の各施設は勿論のこと、撮影所外の現像所、ポストプロダクション、CGハウスの間が、高速回線でネットワーク網が構築されている。このシステムにより、画像データなどを効率的で有機的な受渡しが可能となっている。また、早稲田大学と東宝が運営するこの施設を拠点として、専門家を目指す学生にプロ直結の高度な専門教育を施し、映画・映像分野のリーダーとなる人材の養成が行われている。

普段、映画、特に映像処理については、用語から作業プロセスに至るまで、なかなか馴染みが無い面があります。今回の見学会で、デジタルシネマの製作過程について、ご教示をいただき、日頃不明な部分の理解が、少しずつできました。これを手掛りに、映画映像の理解を深めていきたいと思います。講師の方々に、この場を借りて、お礼申し上げます。

第11回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告

7月1日（日）、札幌、仙台×2、新潟、東京×8、川崎、静岡、名古屋×3、福井、大阪×3、広島、沖縄の11地区23ヶ所の団体受験会場に分散して実施された「第11回サウンドレコーディング技術認定試験」については、当初の受験申請者数697名に対し、欠席者を除く当日の受験者数616名の参加により実施されました。

専門学校 デジタルアーツ仙台

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の基礎理論/音響機器とスタジオシステム/レコーディング技術と先進技術/音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの4ジャンルから各25問（計100問、1000点満点）が出題されましたが、平均点は740.5点という結果になりました。

東北電子専門学校

以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

（1）受験申請者697名　欠席81名　受験者616名（男性381名、女性235名）
最低点300点　最高点1000点（11名）　平均点740.5点

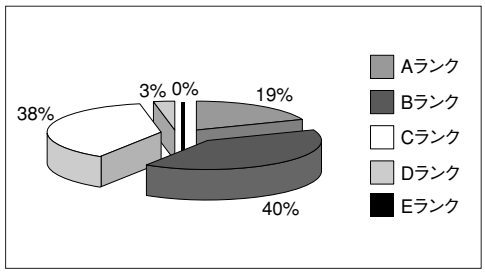
（2）平均点詳細（各ブロック250点満点）
Ⅰ.音響の理論　正答率　80.7%　平均点　202点
Ⅱ.電気音響とスタジオシステム
正答率　71.2%　平均点　178点
Ⅲ.レコーディング技術と先進技術
正答率　69.4%　平均点　173点
Ⅳ.音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など
正答率　74.9%　平均点　187点

（3）得点別人数

1000～900	129名
890～800	117名
790～700	128名
690～600	112名
590～500	92名
490～400	30名
390～300	8名
計	616名

（4）ランク別人数

Aランク	1000～901点	116名
B　〃	900～701点	246名
C　〃	700～451点	233名
D　〃	450～201点	21名
E　〃	200点以下	0名
計		616名



2012年JAPRS企業説明会レポート

受付

平成24年７月８日（日）、レコーディングスタジオへの就職を目指して専門学校に学ぶ学生を対象とした合同企業説明会が高田馬場の専門学校ESPミュージカルアカデミーで開催されました。この催しも今回で１２回目となり、JAPRSの年間行事として定着している。

参加学生は、仙台、新潟、名古屋、大阪からの学生を含めて107名が参加。また、出展側からは、正会員スタジオ８社と賛助会員２社から18名の参加により実施された。

定刻13時より同校の12号館地下２階 Club 1ne2woにて参加者全員が集い、吉田保専門学校委員会委員長より開催挨拶の後、引き続いて、参加企業各社が自社の概要を紹介。

その後、説明会会場をClub 1ne2wo（8社出展ブース）と2Fロビー（２社出展ブース）に分け、二部がスタート。今回は一回あたりの説明時間を30分とし、前半の３回は協会で指定した出展ブースの説明を受け、15分の休憩後、後半の２回は各自が希望するブースでの説明を受ける方法で実施した。

吉田 保 委員長

リクルートスーツに身を固めた熱心な学生たちが説明に耳を傾け、メモを取り、質問をする光景が見られました。

予定時刻の17時に５回目の説明が無事に終わり、企業説明会が終了。

報告の最後に、ご出展いただいた企業の皆様に心より感謝申し上げます。

(株)エムアイティギャザリング

(株)音響ハウス

(株)サウンドインスタジオ

(株)サウンド・シティ

(株)バーディハウス

(株)バーニッシュ

(株)フリーダムスタジオ

(株)ミキサーズラボ

(株)メディア・インテグレーション

(株)サンフォニックス

出展企業

(株) エムアイティギャザリング	代表取締役	横山　　武
	エンジニア	山口　敦史
(株) 音響ハウス	経理総務部　副部長	豊田　重成
	技術部チーフ	高村　政貴
	技術部チーフ	石井　　亘
(株) サウンドインスタジオ	副参事	河野　洋一
(株) サウンド・シティ	営業部部長	明地　　権
	オーディオ技術部 副部長	中澤　　智
(株) バーディハウス	取締役	横井　俊一
	ブッキング	伊藤　　敦
	ブッキング	田中由美子
(株) バーニッシュ	ゼネラルマネージャー	高橋　孝典
(株) フリーダムスタジオ	代表取締役	目等　　進
(株) ミキサーズラボ	統括次長	中村　隆一
	技術総務課　課長	上野　健也
(株) メディア・インテグレーション	取締役	岡田　詞朗
(株) サンフォニックス	管理部総務課課長	西尾　靖彦
	管理部総務課主任	柳下　朋子

（以上敬称略）

第３回東京地区Pro Toolsセミナーレポート

（株）サンライズミュージック
阿南　恵介

清水 三義 技術委員長

平成24年８月10日（金）、東放学園・新宿研究所にて参加者34名によりPro Toolsセミナーが実施されました。

（株）サンミューズの君塚 隆志氏と赤尾 真由美氏を講師とし、全体が４部に区分された内容を以下の通りレポートします。

１．PC編

＜MacProハードウェアの世代について＞
対応ＯＳや形状と年代などでの見分け方、世代毎のHDマウント金具の違い、よく見られる故障などを表を見ながら、実際の使用で起こった問題点の話を織り交ぜながら解説。
＜ハードの世代別のメモリーの対応状況＞
ハード毎の対応規格、互換性の有無など。
＜PTHDX対応のMacProについて＞
一見可能にみえても、世代によって、HDXカード装着が不可能なハードがある。簡単な見分け方を写真で解説。
＜Ｇ５のPCIXとPCIｅ＞
電源の形状などでの見分け方。
エクスパンションシャーシの紹介も。
＜MountainLionと最新のMacPro＞
セミナー実施の時点で分かっている各種対応状況、流通状況などを解説。

君塚 隆志 氏

２．Pro Tools編

＜ADカードNGの最新事情＞
スタジオで多くの人が体験している192i/oADカードの故障について。
故障しやすいロットナンバーがある。交換時の指定が可能。
DCが流れノイズがのりやすい状況も解説。
頻発する場合は、スタジオ内の電位差をチェックすることが必要とのこと。
＜Pro Toolsの最近のバージョン＞
＜最近のトラブル事例＞
メモリー不具合によるカーネルパニック。

PT9以降でよくあるアウトプットのトラブル事例。
新しいキーボードの使用電流の違い。
割高だが外部機器が安定して使用できているUSBハブの紹介。
安価なハブは定期的に交換が必要。
iLokの破損を防ぐ対策法。
iLokも新しいものに変えて行くべき。
＜Waves V9について＞
iLokを使わずUSBメモリをつかったアカウント管理。注意点の解説。
＜AAXプラグイン＞
現在、順次対応してきてはいる。最新情報、状況解説。

3．管理編

＜バックアップ体制やサポートに対しての考え方＞
スタジオ作業の中心になっているMacとPro Toolsは予備機を用意するべき。
こまめなエスカレーションが有効である。
＜有償サポートについて＞
AVIDのサポートについて
一例として、（株）サンミューズでのサポートの紹介
＜Pro Toolsのアップグレード時の注意＞
OSとHDX、HD I/Oの適合に注意
複数のOSをインストールする際の注意点。

4．OSX LionとPro Tools10HDと新しいHDXカード

＜OS Lionの設定＞
＜実際の動作＞
＜Pluginsの対応状況＞
全員にAVIDの資料を配布
実機を用意して動作関連の実際を見ながら解説。
現在までにわかっている問題点と解決方法を解説。
Pro Tools10は最後の32bitバージョンになるとのこと。

以上、２時間という短時間とは思えない、現在までのPro Toolsと、MacやOSだけでなく周辺の状況についての十分な話をしたあとのPro Tools10の紹介という、内容が濃く、流れの良いセミナーとなりました。

十分に検証されていない新商品の良いところをひたすら紹介することが目的のセミナーではなく、実際に使用してからの問題点を以前のバージョンと比較しながら紹介していく、スタジオ協会ならではの今回のセミナーは有意義な情報が沢山ありました。

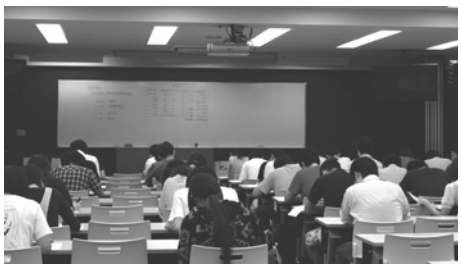
君塚氏と赤尾氏の使用者の立場に立った説明は、参加者全員に分かりやすく、各スタジオの知識と意識の向上に役立つことを期待します。

そして、移り変わりの早いPro Toolsについてのセミナーは、これからも定期的に実施されるべきだと感じました。

第９回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告

９月９日（日）、札幌×２、仙台、福島、新潟、東京×７、横浜、名古屋×２、大阪×３、広島、博多、鹿児島、沖縄の12地区22ヶ所の団体受験会場に分散して、「第９回JAPRS認定Pro Tools技術認定試験」が実施されました。本年度の受験者数は、昨年度の465名に対して510名という結果となりました。団体受験会場として今年も博多、鹿児島、沖縄地区でも実施されました。

また、今回の試験については、昨年と同様に受験者個々のPro Toolsに関する知識をより明確に把握するために、初級50問（500点）、中級50問（500点）の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・用語集など」に区分された出題としたが、初級問題の正答率は71.5%、中級問題については55.8%、全体的な正答率は63.7%という結果になりました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。



専門学校 名古屋ビジュアルアーツ

横浜デジタルアーツ専門学校

（１）受験申請者596名　欠席86名　受験者510名（男性334名、女性176名）
最低点190点　最高点1,000点（7名）　　総合平均点642.2点

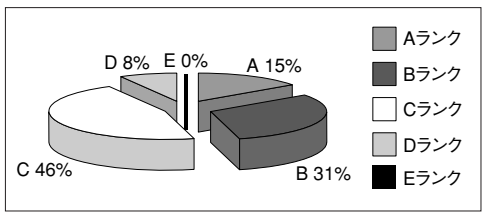
（２）平均点詳細
初級１（Pro Tools概要／130点）：95点
初級２（録音・編集／110点）：76.8点
初級３（ミキシング／120点）：84.6点
初級４（シンク・MIDI・ファイル管理など／140点）：102.4点
◆初級計358.7点
中級１（Pro Tools概要／130点）：72.6点
中級２（録音・編集／130点）：77.9点
中級３（ミキシング／130点）：73.1点
中級４（シンク・MIDI・ファイル管理など／110点）：59.9点
◆中級計283.5点

（３）得点別人数

1000～900	53名
890～800	72名
790～700	65名
690～600	98名
590～500	111名
490～400	67名
390～300	38名
290～200	5名
200～	1名
計	510名

（４）ランク別人数

Aランク	1000～901点	47名
B　〃	900～701点	138名
C　〃	700～451点	242名
D　〃	450～201点	82名
E　〃	200点以下	1名
計		510名



JAPRS高音質配信セミナーレポート

㈱音響ハウス　マスタリング
石井　亘

2012年11月６日（火）、東放学園音響専門学校・渋谷校舎において「高音質配信セミナー・～高音質配信ビジネスの現状と期待～」と題しJAPRS会員19名、個人会員２名、関連団体５名の参加により実施されたセミナーをレポート致します。

●第一部　　高音質配信ビジネスの現状と課題
講師：オンキヨーエンターテイメントテクノロジー㈱
　　ネットワークサービス部　田中　幸成 氏

高音質配信ビジネスの現状と課題

(1) 2012年ハイレゾ音楽配信の盛り上がりと兆し
(2) e-onkyo music　サービス立ち上げの背景と現状
(3) 高音質配信再生環境と今後の課題

田中 幸成 氏

(1) 2012年ハイレゾ音楽配信の盛り上がりと兆し

2010年頃からハイレゾ音楽配信は盛り上がりと兆しを見せ始める。

2002年以降の音楽パッケージ売上は下降線を辿っているのに対し配信マーケットは上昇曲線を描いている。日本の音楽配信はモバイル売上が大半であったが、フューチャーフォンがスマートフォンに席巻されてからはダウンロード売上も減少を始めた。無論モバイルでの売上がまだまだ多いのだが、PC向けも2005年に比べれば上昇し30億程度の増収益となっている。残念ながら総合的には音楽コンテンツの売上は下降線である事に変わりはないのだが2012年は大きな変化がみられた。“ハイレゾ”というキーワードが浸透し、コンテンツにビクターエンタテインメントタイトルがラインナップされた事で大きくメディアで扱われはじめた。WEB、大手新聞、また、オーディオ機器を扱う専門紙ではハイレゾダウンロードＰＣオーディオをテーマに機器選定や設置方法をレクチャーした書籍が多く出版され、オーディオ機器イベントでは大きな反響もあり盛り上がりの兆しを見せている。

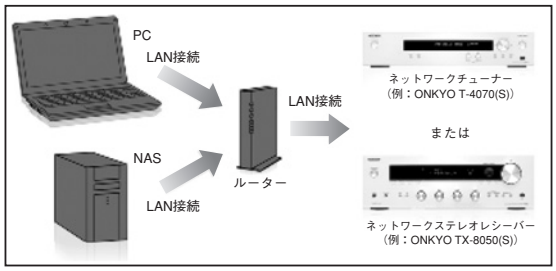
(2) e-onkyo music　サービス立ち上げの背景と現状

アナログパッケージ時代はオーディオ機器全盛。カセット、レコード、アンプ、スピーカーとセパレートした機材が主流であったが、ＣＤ、ＭＤの登場を期にコンポーネントと呼ばれるセットアップされたミニシステムが登場した。しかし、デジタルＦＩＬＥが登場してからはプレーヤーとしての機能はＰＣや小型携帯プレーヤーへと変貌し、情報量も低レート、高圧縮と音質面では劣化方向に進んでいる。それを受け、良質の音楽と環境を再びユーザーに届けたいという思いから高音質配信（ハイレゾ）機器の開発とe-onkyo musicの立ち上げを行った。無論扱う音源はポータブルプレーヤーから換算すると情報量としては約256倍の情報を持ち、原音に近い96kHzをメインにコンテンツの充実を図っていくようである。ラインナップの内訳はCDクオリティー：55,000曲。ハイレゾクオリティー：20,000曲。 配信フォーマットはWAV, FLAC, Dolby TrueHD,DSD［192kHz～44.1kHz（DSD）2.8M］と種類は豊富でどのコンテン

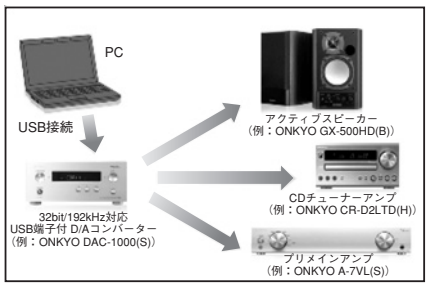
ツもＤＲＭ（コピーガード）フリーで販売されている。（DRMは2010年にフリーにした結果、アクセスと販売が伸びを見せたようである。）ユーザーの内訳をみると30歳～60歳の男性ユーザーが98%、女性ユーザーが２%。クラシック、ジャズ、ポップ・ロックの順に人気がありダウンロード数もハイレゾ傾向の強いものが売れている。

（3）高音質配信再生環境と今後の課題

①ネットワークオーディオ



②USBオーディオ



現在の再生環境はPC（HDD）にダウンロードされた後、LANもしくはUSB接続によりレシーバーアンプもしくはチューナーからスピーカーに接続されている。DSDの再生には専用レコーダーもしくはDACを使用する。2012年にはポータブルプレーヤーも開発され、より簡易にシステム構築できるような製品が揃いつつある。NASや専用チューナーを使用しなくてもPC上から再生できるようなプレーヤーも多数リリースされており、無論プレーヤーによっても音の違いがあるとの話もあるが、ハイレゾ音源を十二分に楽しめる環境は整いつつあるようだ。だが現状の問題として挙げられていたのが、コンテンツの充実と価格、決済方法。コンテンツへの導線（検索方法）また、再生環境の作り方から幾多にも渡る音源フォーマットの整理、曲間問題等、まだまだユーザーの手を煩わせない総合的環境づくりが市場拡大への課題としていた。また外部環境の変化も大きく、サービス体系及びプロモーションメディアの多様化、タブレット端末の拡大、通信環境の高速化も含め外的動向にも注視し、これらの問題を乗り越えて行く事が急務であるとの話しと併せて、「良い音をユーザーに提供する為に技術者、コンテンツホルダー、ディストリビューター、三身一体となって取り組み市場を盛り上げて行きたい」という田中氏の言葉には熱い気持ちが込められ、ハイレゾ配信へのe-onkyo様の取り組みと意気込みが伝わる講義内容となっておりました。質疑応答の際も技術的質問が飛び交いハイレゾ音源配信の大きな波は直ぐ側まで来ているのだと実感した内容となっておりました。

●第二部

講師：ビクターエンタテインメント㈱
　　ビクタースタジオ　デジタルソリューショングループ長
　　鈴木　順三 氏

（1）VICTOR STUDIO HD-SOUND
（2）K2HDプロセッサーによるハイレゾ音源制作（技術説明）
（3）FLAC関連説明会

鈴木 順三 氏

（1）VICTOR STUDIO HD-SOUND

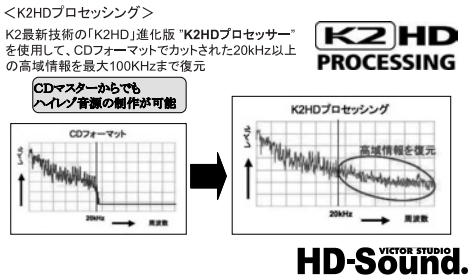
ビクタースタジオが音質にこだわったレーベル“VICTOR

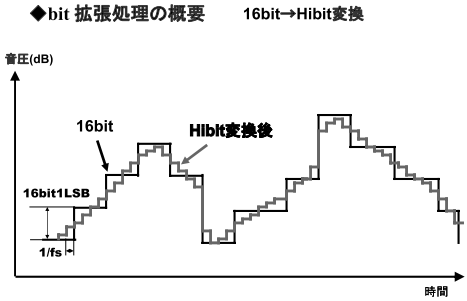
STUDIO HD-SOUND”を設立。

音質、クオリティーにこだわりタイトルを厳選して配信リリースしてゆく。マスターの持つ魅力が十分に記録されたタイトルは９月第一弾20作品を皮切りに今後続々とリリースされる予定という。音源は１インチ2chスーパーアナログマスター（再生はSTUDER A80の改造機を使用）に始まり、ハイレゾデジタルマスター、また、K2HDプロセッシングを経たものになり、サンプリングレートも96kHz～192kHz、DSDとハイレゾにこだわった作品群がリストアップされていた。

（2）K2HDプロセッサーによるハイレゾ音源制作（技術説明）

K2HDプロセッサー：K2の最新技術「K2HD」の進化版。CDフォーマットでカットされた20kHz以上の高域情報を最大100kHzまで復元する。CDマスターからでもハイレゾ音源の制作が可能。量子化に伴いＣＵＴされる高周波帯域を基本波＋２次、３次、４次、５次高調波で生成しbit拡張処理と周波数拡張処理をタイムドメインで行うことで原音に近い波形をデータ化出来るという技術である。このK2HDプロセッサーを使用しハイレゾ音源変換作業を行ってゆく。曲単位で最適なパラメータ設定するようになっており、曲の途中でパラメータを変更できるようにすることが今後の課題である。





（3）FLAC 関連説明

FLAC:Free Lossless Audio Codecは可逆圧縮方式いわゆる再生時に元データに解凍伸長されるものである。圧縮率は50%程度と過度な圧縮はされておらずサンプリング周波数は192kHz～16kHzまでと幅広い。チャンネル数は1～8ch、ビットレートも32bit～4bitと広範囲なオーディオフォーマットに対応している。また、ファイルのメタデータ内にパッケージ商品同様の情報を記録出来る領域を持ち合わせている為、配信フォーマットとして採用される事が多くなっているようだ。但し、高音質FLACファイルはネットオーディオプレーヤーやハードウェアとの互換性に問題を残しており、FILE再生のコマンドを出しても膨大なメタデータを先読みし、その間、音が出力されなかったり、曲間が上手くつながらなかったりと様々な不具合は出ている。最近になり需要が増えたFLACファイルはオープンソースプログラムでありフォーマットの解釈が多様化した為、再生側で全てのFILE互換が取れないという問題が起きている。

●第三部

講師：ビクターエンタテインメント㈱
　　ビクタースタジオ　デジタルソリューショングループ
　　青沼　隆志 氏
　　ビクターエンタテインメント㈱
　　サウンド・プロデューサー

青沼 隆志 氏

高田　英男 氏

(1) 高音質配信音源とAAC 256kbps、CDとの比較試聴
(2) K2HDによるハイレゾ音源試聴

高田 英男 氏

(1) 高田氏による説明の後、幾つかの音源を聴き比べ致しました。

まずはAAC256kbpsとCD（1411kbps）の比較試聴。一般ユーザーはiPod等にデータコンバートする際データレートが128kbpsと少なめだったりするのだが、倍の情報量でエンコードされたのと聞き比べたものの残念ながらＣＤ音質の持つサウンドの良さを感じ取る事ができませんでした。最新のi-Tunesでは256kbpsエンコードを標準化している。

(2) K2HDによるハイレゾ音源試聴

FLAC、CD、96k、192k、K2HD処理と様々なパターンで聴き比べを致しました。

圧縮されたデータ（FLAC）は可逆圧縮であったとしても元とは違ったテイストで再生され幾つかの行程を繰り返す事が音質に影響を及ぼす事は実感できた。またCDとK2HDの音質差には驚くものがあり無論44.1kHzをK2HDプロセスを行い96kHzにアップサンプリングしてあるのですが、付加された倍音は無理のないもので96kHz収録（WAV）の元音源に近いニュアンスを引き出していました。

ただ、ハイエンドが付加されている分帯域全体のフォルムには違いが出ていると感じられましたが全体的な印象としてはきれいになったという感じである。

●本セミナーの感想

音楽業界が冷え込む中で技術側からすると、ハイレゾ配信は望まれるコンテンツである。

配信か？メディアか？という問いには正直答えられないが、メディアの重要性は業界内でも捨て切れていない以上暫くは共存した状態が続くと思われる。ただハイレゾ販売チャンネルがある以上、収録時のサンプリングレートをハイレゾ方向に進めておく事に間違いはないようである。

第19回日本プロ音楽録音賞授賞式 レポート

内沼 映二 運営委員長

「日本プロ音楽録音賞」は、平成５年に当協会が制定した「JAPRS録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成６年より実施されているものです。

今回第19回目の実施にあたり、（社）日本音楽スタジオ協会および一般社団法人日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPNの５団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟の協賛、サウンド＆レコーディング・マガジン、ＣＤジャーナル、ステレオサウンド、レコード芸術の賛助、並びにビクターエンタテインメント(株)、オタリテック(株)、(株)ソナ、(株)サウンドインスタジオ、東放学園音響専門学校の協力により「第19回日本プロ音楽録音賞」を実施し、平成24年12月６日(木)、アジュール竹芝14Ｆ「天平」に於いて授賞式、13Ｆ「飛鳥」に於いてパーティーが開催され、受賞作品および受賞者の発表が行われました。

今回の授賞式も「音の日」のイベントとして開催され、はじめに内沼会長が運営委員長として開会の辞を述べられ、続いてプロ音楽録音賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏が来賓代表として挨拶された後、４部門計10作品およびベストパフォーマー賞並びに、本年度より新設された新人賞、2chオーディオ・ファイル賞について表彰が行われました。

経済産業省 文化情報関連産業課
課長補佐 望月 孝洋 氏

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の４部門およびベストパフォーマー賞、新人賞、2chオーディオ・ファイル賞を対象に行われ、全91作品の応募から部門Ａ：３作品、部門Ｂ：３作品、部門Ｃ：１作品、部門Ｄ：３作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から部門Ａ１作品、部門Ｂ１作品、部門Ｄ１作品が最優秀作品として選定され、更にベストパフォーマー賞１作品、新人賞２作品、2chオーディオ・ファイル賞１作品が選ばれました。

部門Ａ：2chパッケージメディア／応募作品19点
クラシック、ジャズ等
部門Ｂ：2chパッケージメディア／応募作品33点
ポップス、歌謡曲等
部門Ｃ：サラウンドパッケージメディア／応募作品３点
SACD 、DVD-Audio、DVD-Video、
Blu-ray Discのマルチchサラウンド
部門Ｄ：放送メディア／応募作品27点
放送作品部門
（ラジオ番組：AM、FM、衛星放送）
（テレビ番組：地上波、衛星放送）
ベストパフォーマー賞
新人賞
2chオーデイオ・ファイル賞／応募作品９点

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品およびベストパフォーマー賞、新人賞、2chオーディオ・ファイル賞を紹介するとともに、最優秀作品として表彰された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティスト、新人賞、2chオーディオ・ファイル賞の代表エンジニアにアンケートを依頼し、受賞の感想、作品のコンセプトについてコメントをいただきましたので、25頁以降に掲載させていただきます。

第19回日本プロ音楽録音賞
授賞式次第

1、主催者代表挨拶

第19回日本プロ音楽録音賞　運営委員長
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

2、ご来賓ご挨拶

経済産業省　商務情報政策局
文化情報関連産業課　課長補佐　望月　孝洋 様

3、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

部門A
一般社団法人日本オーディオ協会　顧問　藤本　正熙
ビクターエンタテインメント株式会社　サウンド・プロデューサー　高田　英男

部門B
一般社団法人日本レコード協会　理事　畑　陽一郎
日本ミキサー協会　理事長　梅津　達男

部門C
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二
専務理事　清水　三義

部門D
日本放送協会放送技術局制作技術センター　専任局長　毛塚　高栄
社団法人日本音楽スタジオ協会　相談役　淺見　啓明

4、ベストパフォーマー賞の発表及び表彰並びに審査員講評

一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPN　副理事長　松武　秀樹
理事長　椎名　和夫

5、新人賞の発表及び表彰並びに審査員講評

社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

6、２chオーディオ・ファイル賞の発表及び表彰並びに審査員講評

ビクターエンタテインメント株式会社　サウンド・プロデューサー　高田　英男

7、受賞者代表挨拶

部門B　最優秀賞　レコーディング・エンジニア　高山　浩也

以上

部門A　「2ch パッケージメディア」クラシック、ジャズ等
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「for me」（ESCL3870）より
「Save the Dream」松下 奈緒 CD

発売元：株式会社EPICレコードジャパン

☆ミキシング・エンジニア：秋元 秀之
（ビクターエンタテインメント株式会社
ビクタースタジオ）

＜受賞のことば＞

この度は、最優秀賞にご選定頂き誠に有り難うございます。私にとって本曲の様な大編成ものはあまり馴染みがなく、内心はどうしたら良いのかと常に冷や汗での作業でしたが、皆様の多大なるお力添えにより、この賞に繋げさせて頂いたと心より感謝しております。

まずは何と言っても「ピアノ」です。松下 奈緒さんのプレイは非常に素晴らしく、この曲はほぼ同時録音の一発テイクです。且つ、タッチについても秀逸で、これまでの私の存じ上げるピアニストの方の中でも、群を抜いてクリアーで力強いのです。出音があれだけ良ければ、どんな録り方でも関係はないでしょう。

次はアレンジの青柳 誠さんとマネージャーの国島さんです。国島さんには編成・構成からスタジオレイアウトまで完璧な事前のやり取りをフォロー頂き、曲ごとのサウンドアレンジが非常にスムーズに出来ました。加えて、青柳さんの打ち込み具合と録音も含めた自宅作業のクオリティーがとても高く、聴いただけではどの楽器がシンセなのか、また自宅で録音されたのかは全く分からないと思います。

またアシスタントの大久保君も大きなサポートをしてくれました。セッションのスムーズな進行は勿論、不要なノイズ取りまで合間を見てはマメに綿密にやってくれた為、仕上がりのダイナミックレンジが驚く程良くなっています。

そして何より川﨑名人のマスタリングです。まあ、川﨑さんに頼んでおけば間違いないですね。

皆様、本当に有難うございました。

ビクタースタジオ　秋元 秀之

○マスタリング・エンジニア：川﨑 洋（FLAIR MASTERING WORKS）
○レコーディング・エンジニア：青柳 誠
○アシスタント・エンジニア：大久保 孝洋（ビクターエンタテインメント株式会社
ビクタースタジオ）

【優秀賞】

●作品「TRICOROLL」（EWBS0184）より
「The Sidewinder」渡辺 香津美　CD

発売元：株式会社イーストワークスエンタティンメント

☆ ミキシング＆マスタリング・エンジニア：鈴木 浩二
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）
○レコーディング・エンジニア：内藤 克彦（フリーランス）
○セカンド・エンジニア：波多腰 英靖（フリーランス）
○アシスタント・エンジニア：米山 雄大
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

●作品「Tomorrow」(PCCY-30197)より「Tomorrow」Woong San　CD

発売元：株式会社ポニーキャニオン

☆レコーディング・ミキシング＆
マスタリング・エンジニア：川崎 義博
（株式会社ポニーキャニオン）

部門B「2ch パッケージメディア」ポップス、歌謡曲等
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「カサリズム」（BVCL-415）より
「感謝」カサリンチュ　CD

発売元：Ariola Japan Inc.

☆ミキシング・エンジニア：高山 浩也
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

＜受賞のことば＞
　この度は「第19回日本プロ音楽録音賞」部門Ｂ最優秀賞を頂き、大変嬉しく思っております。
　たくさんの人に感謝の言葉を述べたいのですが、特にディレクターの町原さん（アリオラジャパン）と共にミックスを作ったので、町原さんには「本当にありがとうございます」と伝えたいです。
　カサリンチュの作品の録音コンセプトは、ヒューマンビートボックス（以下ＨＢＢ）をいかにドラムらしく面で見せられるかがポイントでした。（この曲にはサビにドラムのサンプル音源が入っていますが、サビ感を出すのに必要なため足しました）
　カサリンチュはHBB、アコースティックギターというシンプルなオケ編成です。
　ギターもHBBもほぼモノ音源なので、いかに面でグルーヴを作れるかがとても難しかった所です。
　その為にHBBをキック・スネア・ハットなどまずリージョンで分け、それぞれEQとコンプレッサーで整え、ブースにスピーカーを二つ用意してキックとスネアの位置付近にセッティングし、それぞれの位置で音源を鳴らしてドラムの録音の際にトップのマイクを置くであろう場所にC414を２本立て、ドラムを録った時のような空気感を作ったりと、書ききれない位の工夫やチャレンジをしていきました。

どこまでそれが作品に影響が出ているかどうかなどは、一般ユーザーの方々の耳には届きにくい部分ではあると思いますが、そのようなチャレンジと努力を細かいところまで追求していった結果にこのような賞を頂いたことを大変嬉しく思います。
今後ともいい音とは何かという疑問を追求しながら、クオリティの高い音源を作り続けていきたいと思っております。
この度は誠にありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：阿部 充泰
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

【優秀賞】
●作品「歌窈曲」（FLCF-4423）より
「逢いたくて　逢いたくて」 一青 窈　CD
発売元：株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント

☆ミキシング・エンジニア：三浦 瑞生（株式会社ミキサーズラボ）
○マスタリング・エンジニア：宮本 茂男（form THE MASTER）
○アシスタント・エンジニア：石 光孝（株式会社ミキサーズラボ）

●作品「ITALIAN GARDEN」（UMCK-1409）より
「京都野郎」CRAZY KEN BAND　CD
発売元：ユニバーサルミュージック合同会社

☆ミキシング・エンジニア：川上 章仁
（ダブルジョイレコーズ有限会社）
○マスタリング・エンジニア：原田 光晴
（ビクタークリエイティブメディア株式会社 代官山スタジオ）

部門C「サラウンドパッケージメディア」
SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
今年度該当作品はありませんでした。

【優秀賞】
●作品「小澤征爾指揮 水戸室内管弦楽団 2012
～チェロ独奏 宮田 大～」（NSBS-17531)より
「ハイドン：チェロ協奏曲第１番ハ長調
Hob.VIIb-1 第２楽章Ⅱ.Adagio」
指揮：小澤 征爾　演奏：水戸室内管弦楽団
チェロ独奏：宮田 大　Blu-ray Disc
発売元：株式会社NHKエンタープライズ

☆**ミキシング・エンジニア：小野 良太**（日本放送協会）
○**マスタリング・エンジニア：石井 亘**（株式会社音響ハウス）
○**アシスタント・エンジニア：島嵜 砂生**（株式会社NHKメディアテクノロジー）
○**アシスタント・エンジニア：橋爪 香織**（株式会社SCI）

部門D「放送メディア」放送作品部門

（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「2011サイトウ・キネン・フェスティバル松本」より
「チャイコフスキー 交響曲第４番 第４楽章」
指揮：ディエゴ・マテウス　演奏：サイトウ・キネン・オーケストラ

長野朝日放送株式会社
HDTV 5.1ch 2011年12月23日放送

☆**ミキシング・エンジニア：岩井 和久**
（長野朝日放送株式会社）

＜受賞のことば＞

この度は、「第19回日本プロ音楽録音賞」　部門Ｄ最優秀賞に選出していただきまして、審査員の方々はじめ、スタッフの皆様に感謝いたします。

小澤 征爾氏が音楽監督を務めるサイトウ・キネン・フェスティバルは今年20周年を迎えました。我々が収録を始めて15年、サラウンド収録を始めて10年目になります。収録当初から、このような賞が取れたら良いなと思い作品を応募し続けましたが、中々結果が出ず、このような素晴らしい素材を生かし切れない自分の技量の無さに悔しさを感じました。第14回プロ音楽録音賞で初めて優秀賞を頂いた時の感動は今でも覚えています。

一流の演奏家を一流の指揮者がバランスを取っているので、メイン・マイクの位置が決まれば我々のやる事は殆どありません。DPAの無指向性マイク7本からなるメイン・マイクとグレイスのHAの組み合わせで収録しました。補助マイクの使用も極力抑えた後処理無しの現場での一発録りです。この作品は、収録と同時に全国数か所でサラウンド生放送があり、いつもとは違う緊張感・集中力で臨めたことが良い結果に繋がったと思います。演奏家のパフォーマンスの素晴らしさが良い結果を生んだ最大の要因です。

今回の受賞に恥じないよう「テレビの良い音」を追求していきたいと思います。

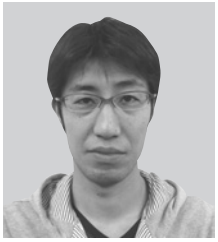
ありがとうございました。

○**セカンド・エンジニア：都鳥 真**（長野朝日放送株式会社）
○**セカンド・エンジニア：植田 浩二**（株式会社関西東通）

【優秀賞】

●作品「ブラボー！オーケストラ」より
「ハイドン 交響曲 第55番 変ホ長調 校長先生」
指揮：下野 竜也　演奏：オーケストラ・アンサンブル金沢

NHK　FM stereo　2012年9月16日放送



☆ミキシング・エンジニア：水野 友晴（日本放送協会 金沢放送局）
○セカンド・エンジニア：矢神 彰人（日本放送協会 名古屋放送局）
○セカンド・エンジニア：鎌田 智宏（日本放送協会 金沢放送局）
○アシスタント・エンジニア：藤田 莉佳（株式会社オトムラ）

●作品「僕らの音楽」より「Life is Beautiful」　藤井 フミヤ

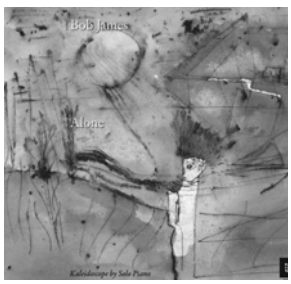
株式会社フジテレビジョン　HDTV stereo 2012年7月13日放送

☆ミキシング・エンジニア：中村 峰子
（株式会社フジテレビジョン）
○セカンド・エンジニア：太田 宗孝（株式会社フジテレビジョン）
○セカンド・エンジニア：大島 啓光（株式会社サンフォニックス）

ベストパフォーマー賞

■作品「Alone kaleidoscope by Solo Piano」（TZEE-0001）より
「Restoration」Bob James　CRYSTAL DISC

発売元：Harman International Japan Co Ltd



アーティスト：Bob James

＜受賞のことば＞

このたび、「アローン」が第19回日本プロ音楽録音賞の「ベストパフォーマー賞」に選出されたことを知り、まことに嬉しく光栄に存じます。

長い音学歴に於いて、ソロ・ピアノ･アルバムを制作したのは、実は今回が初めてのことです。ピアニストとして、いつかソロ・ピアノを、という思いは当然ありました。しかし、アプローチについて、迷いもあって、踏み切れずにおりました。しかし、ここ２～３年、ソロ・ピアノに対する気持ちが高まっていた折に、旧知の間柄であるプロデューサーの伊藤八十八氏からガラスCDの話を聞いて、直感的に決断したのです。こうして生まれたアルバムが「アローン」です。日本で録音するのは、もちろん初めてで、異なった環境でのレコーディングは、ちょっとした冒険でもありました。しかし素晴らしいスタッフに恵まれて乗り越え完成したことに対して、心から感謝申し上げます。「アローン」は、ジャンルにとらわれることなく、オープンな気持ちで、自分のスタイルで表現することを心掛けました。この作品が一人でも多くの方々に愛され、感動を与えることが出来ればこの上ない幸せです。

最後に、日本プロ音楽録音賞が末永く続き、音楽文化と産業の発展に寄与されることを心からお祈り申し上げます。

2012年11月８日　ミシガンにて
ボブ･ジェームス

新人賞

■作品「Home」（CRSA1010）より
「Deep Impact」村井 秀清　CD

発売元：CRESCENTE

☆ミキシング・エンジニア：今関 邦裕
（有限会社アルデバラン）

＜受賞のことば＞

CRESCENTE STUDIO 所属 エンジニアの今関と申します。

この度は日本プロ音楽録音賞・新人賞という大変素晴らしい賞を頂きまして、誠にありがとうございました。

30歳を過ぎて新人賞というのも少し照れくさい気持ちにもなりますが、メインエンジニアとしてはまだまだ駆け出しですし、今後の大事な時期を頑張る糧にもなりますので大変嬉しく思います。

本作品はピアニスト村井秀清さんの2ndソロアルバムでPianoTrioにSax,Stringsを加えたJazzとClassicのクロスオーバー的な作品になっており、所属しているCRESCENTEのレーベル作品でもあります。

トップクラスのミュージシャン達によるほぼ全て生楽器の録音という事でエンジニアの力量も問われる所では有りますが、若手の自分を起用して下さったプロデューサーの岡田さんと村井さんには心から感謝しています。

また、本作は1stアルバムの時から最終マスターをDSDにしています。

ハイサンプルの難しい所を上手くまとめて下さいました、FLAIR MASTERINGの袴田さんにも本当に感謝します。

そして、配信を見据えずあくまで「CD」を作る事に執着し、近年では難しくなってきた大編成の豪華なスタジオ録音に携われたことに感謝すると共に、今後も寸暇を惜しんで日々精進して行きたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

CRESCENTE STUDIO engineer 今関 邦裕

■作品「RADIO STAR HEROES」（TECG-24067）より
「雨に泣いている」duet with　柳 ジョージ
鈴木 聖美　CD

発売元：株式会社テイチクエンタテインメント

☆ミキシング・エンジニア：村上 宣之
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

＜受賞のことば＞

この度は記念すべき一回目の新人賞に選んでいただき誠にありがとうございます。

まず、このアルバム制作を行う上でエンジニアに抜擢していただいた、プロデューサーの鈴木雅之氏に感謝したいと思います。

そしてこのアルバムに関わったディレクター、アレンジャー、ミュージシャンの

方々にも御礼申し上げます。
　鈴木聖美さんデビュー25周年と還暦記念を兼ねたアルバムはデュエットアルバムとなりました。
　今回受賞した楽曲は、故・柳ジョージ氏とのコラボ曲です。オリジナル楽曲は1987年のジョージさん作品ですが、デュエット曲として作られたこの楽曲は、近年再録されたマルチデータからジョージさんのボーカルトラックと、アウトテイクのギターソロトラックを抜き出し、リアレンジという形で作成されました。
　今回心がけたのは、臨場感です。今となっては実際に共演できない二人が同じ空間にいる事をイメージし、歌の処理を考えました。
　今回の受賞は自信につながります。今後も精進していきたいと思います。

㈱ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
村上 宣之

2chオーディオ・ファイル賞

■作品「クラヴィオルガン・ワンダーランド」
（HQMD-10028）より
「J.S.バッハ：トッカータとフーガニ短調 BWV565」
クラウディオ・ブリツィ
フォーマット　176.4/24

発売元：株式会社クリプトン

☆ミキシング・エンジニア：髙島 靖久（株式会社カメラータ・トウキョウ）

＜受賞のことば＞
　この度の受賞は、大変嬉しく思います。2chオーディオ・ファイル部門を新設していただいたことも、将来、より高音質を目指す励みになると思います。選考委員の方々には感謝申し上げます。
　今回の受賞は私一人によるものではなく、特にアーティストとの協力が不可欠でした。16世紀には実在したチェンバロとパイプオルガンを合体させたこのクラヴィオルガンという楽器は、広い周波数帯域と管楽器と撥弦楽器の表現力を兼ね備え、2000年に復元されて以来、レコーディングの度にマイクアレンジや楽器の改良等を重ね、さらにハイサンプリング録音により、楽器本来のピュアサウンドが実現できました。演奏家との長年に渡る信頼関係もまた、今回の受賞作に繋がった結果と感じています。
　音楽の録音エンジニアの仕事はあくまで裏方ではありますが、単なる音の記録ではなく、作曲家、プロデューサーの意図、そしてアーティストの表現を余さず聴衆に伝える代弁者であり、エンジニア自身も表現者でなければと感じています。それはクラシック音楽以外のジャンルでも同様かと思います。エジソンが録音技術を発明する以前は、生演奏で1度しか聴けなかった音楽が現代では無限の聴衆に何回でも伝えることができるようになり、それゆえ、録音エンジニアの感性がより問われていると思います。今回の受賞は私にとって、今後に向けてのより一層の励みとなりました。重ねて感謝申し上げます。

審査委員会

総合審査委員長		内沼　映二
副審査委員長		高田　英男
部門A･B･Cおよび 2chオーディオ・ファイル	審査委員	内沼　映二、梅津　達男、川澄　伸一、椎名　和夫、 塩澤　利安、清水　邦彦、清水　三義、髙城　賢、 高田　英男、増田　晋、松尾　順二、松武　秀樹、 松本　大英、吉田　保、脇田　貞二、渡辺　昭人
部門D審査委員		淺見　啓明、石野　和男、加藤　茂樹、清水　幸男、 浜田　暁弘

（以上50音順）

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったメイン・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞のアーティストに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈し、セカンド・エンジニア、アシスタントエンジニアには表彰状を贈呈。また、新人賞、2chオーディオ・ファイル賞についてはメイン・エンジニアに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈。

なお、部門A、Bの最優秀賞については、優秀なスタッフと良好な環境を提供されたメインのスタジオについても表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。

クリスタル製の表彰楯を手にした受賞者の皆さん

第19回日本プロ音楽録音賞　審査委員講評

＜部門Ａ　２chパッケージメディア（クラシック、ジャズ等）＞

ビクターエンタテインメント株式会社
サウンド・プロデュサー 高田 英男

応募作品総数19作品（前年度27作品）と少なくなっております。

特に今年度はクラシックにおけるオーケストラの録音作品が少なかったです。

では受賞作品について講評させて頂きます。

優秀賞　２作品

・作品　「TRICOROLL」より「The Sidewinder」
　アーティスト　渡辺 香津美
　(株)イーストワークスエンタティンメントより発売
　ミキシング＆マスタリング・エンジニア　鈴木 浩二
　(株)ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

・作品　「Tomorrow」より「Tomorrow」　アーティスト　Woong San
　(株)ポニーキャニオンより発売
　レコーディング・ミキシング＆マスタリング・エンジニア　川崎 義博
　(株)ポニーキャニオン

おめでとうございました。

「The Sidewinder」 アーティスト　渡辺 香津美さん作品ですが、録音はニューヨークSkylineスタジオ、録音エンジニア　内藤 克彦さん、セカンドエンジニア　波多腰 英靖さん（フリーランス）、ミックスはソニー乃木坂スタジオで鈴木 浩二さんにより纏められました。編成はドラム・ベース・ギターのトリオ編成です。低域の安定した太いベースサウンド・繊細なシンバルワーク～演奏者バランスを大切にした力強いドラムサウンド、ソリッド的でありながら深みのあるギターサウンドなど、鈴木 浩二さんが創り出すサウンドはアーティストが目指す音楽性を明確に音として表現され、より音楽性を高める感性・技術力の素晴らしさを感じます。

尚、CDはBlu-spec CDにより歪感の少ない艶のあるアナログ的音質に仕上がっています。

「Tomorrow」アーティスト　Woong San作品ですが、録音はソウル　Yeumスタジオ、ミックスがポニーキャニオンスタジオです。

川崎 義博さんは第17回プロ録で今回受賞されたWoong Sanで優秀賞を受賞され、昨年度第18回でジャズシンガー　小林 桂の作品で優秀賞を受賞されており、今年度で３年連続での受賞となっており素晴らしい快挙です。

川崎 義博さんが創り出すサウンドは大変クリアーで透明感のあるサウンドが特徴的です。

小林 桂さんの時も感じたのですが、Woong Sanの唄が心に響く音創りが本当に素晴らしいと感じました。更にタイトなドラムブラシ・少し甘くニュアンスのあるギターサウンドなど、音楽性を高める大変安定した匠なエンジニア力を感じております。

・最優秀賞
作品　「for me」より「Save the Dream」　アーティスト　松下 奈緒
　(株)EPICレコードジャパンより発売
　ミキシング・エンジニア　秋元 秀之　ビクターエンタテインメント(株)
　マスタリング・エンジニア　川﨑 洋　FLAIR MASTERING WORKS
おめでとうございました。

　録音はビクター301スタジオ、全て同時に録音　録音フォーマット96kHz/24bit　同時録音エンジニア　秋元 秀之さん　一部アレンジ＆ミュージシャンの青柳 誠さんが担当されています。
　力強くクリアーなアコーステックピアノ、同時録音ならではのスケール感・迫力あるストリングスサウンド、更に緻密なミキシング技術により一つの音楽ドラマ的なイメージで音創りがされています。
　秋元 秀之さんが創られるサウンドは音楽をよりドラマチックに創り上げる感性・技術力が大変高く、今までにも数多くのヒット作品を担当しております。
　マスタリング・エンジニアはFLAIRの川﨑 洋さん、プロ録音賞の常連であり国内数多くのヒット作品及びエンジニア秋元さん担当作品はほとんどマスタリングをされております。尚、今回ミックス・オリジナルHDDをマスタリングに持ち込むなど、音質への繊細な拘りにより音創りがされております。

纏め
　今回受賞された皆様は、日本プロ音楽録音賞、受賞常連のエンジニアの皆さんです。
　それぞれに独自のエンジニア・スタイル（サウンド創り）を持っており、そのエンジニアが作品を担当する事によってアレンジをより生かす音創り、アーティストの魅力を大きく広げる力を持っております。
　ただ単に良い音質という事では無く、音楽の深さを音で表現するエンジニア力、その素晴らしさを痛感致しました。
　今後共に、皆様の素晴らしいエンジニア力で数多くの作品を生み出して頂きたいと思います。
　本日は本当におめでとうございました！

＜部門Ｂ　２chパッケージメディア（ポップス、歌謡曲等）＞

部門Ｂの講評をさせていただきます。
　応募作品数は33作品、昨年の23から大幅に増え、プロ録も少し認知度が上がったかな、と思っております。
　内容としましては、Jポップが中心で演歌、歌謡曲が少なくなって参りました。
　今回の音の印象は、「太くてタイト」な音と言えると思います。音を言葉にするのは難しいのですが、太いという意味は、素材の音がしっかり表現されている事。マイキングやComp/EQで、しっかり音創りがされていたと思っております。

日本ミキサー協会
理事長 梅津 達男

早速、受賞作品についてお話します。

まず、優秀賞、
ミキシング・エンジニア：ミキサーズラボ　三浦 瑞生　さん、
マスタリング・エンジニア：form THE MASTER　宮本 茂男さん
一青 窈　「逢いたくて 逢いたくて」

この曲のオリジナルを知っている方は、かなりの年配かと思いますけれども、昭和の香りのする楽曲を一青 窈さんが個性的に歌っています。
今年、残念ながらクローズいたしました、一口坂スタジオでの一発録りだそうです。
三浦さんは、これまでも何度も受賞している事からも分かりますように、いつも安定した録音をしています。
オケの音がしっかりした音である事は言うまでも無く、ボーカルの扱いがとても丁寧です。
今回も、ブラシの、Drの歯切れ良さ、H.Hのジャストなバランス、W.Bの低音の安定感と、全てをコントロール仕切った作品でした。

もうひとつの優秀賞
ミキシング・エンジニア：ダブルジョイレコーズ　川上 章仁さん、
マスタリング・エンジニア：ビクタークリエイティブメディア　原田 光晴さん
CRAZY KEN BAND 「京都野郎」

唄のハッキリした音創りが特徴のクレージーケンバンド、バンド紹介を見てメンバーの多さにビックリしました。今回の作品にもかなりの音数が入っておりますが、何より、コンプの使い方が上手かったと思います。ちょっと深めですが、どのシーンでも何を聞かせたいかハッキリしたミキシングでした。最近の傾向のひとつですが、ラジオで流れても負けない音という感じがいたします。

そして最優秀賞

ミキシング・エンジニア：ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
高山 浩也さん、
マスタリング・エンジニア：ソニー･ミュージックコミュニケーションズ
阿部 充泰さん、
カサリンチュ「感謝」

メンバーの二人とE.GtとOrganのサポートで録音、H.B.B（口Per）と打ち込みのDrのリズムがとても良い位置関係にあったと思います。私の考えでは、イントロのGtのサウンドで最優秀を取ったと思います。
少ない音ですが、ちょっと広めの空間の作りがなんとも心地よく、良く聴くと音が動いていたりと細かいところまで丁寧に仕上げられた作品でした。

部門Bは毎回３作品を優秀作品として紹介していますが、その差はほんの僅かです。
審査員16名中11名がレコーディング・エンジニアで、評価の傾向は一応合っている

と思いますが、ちょっとした視点の違いからこのような結果になりました。
今年は、他にも個性ある作品がいつもより多めにあったと思います。

次回は、20回を迎えます。プロ録がますます広がりますよう皆様のご協力をお願いして講評とさせていただきます。

受賞者の皆様、本日は本当におめでとうございました。

＜部門C　サラウンドパッケージメディア＞
SACD、DVD-Audio、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド

（社）日本音楽スタジオ協会
専務理事 清水 三義

部門C　サラウンドパッケージメディアの作品につきまして講評させて頂きます。
今年度の応募数は３作品という事もあり、最優秀賞作品につきましては審査委員の皆様に計りましたところ、該当なしとの結果になりました。
従いまして、部門Cにつきましては優秀賞１作品のみを選定させていただきました。

応募作品ですが、ポップス・ロック系Live作品が２作品、そして、クラシックのLive作品が１作品と大変少ない応募数でしたが、その分水準の高い３作品でした。

３作品ともBlu-ray Discの映像作品で、音声はサンプリング周波数96kHz/量子化bit数24bit のDTS HDやDolby Digital又は、リニアPCMの、5.0chや5.1chのいわゆるhi-reso音声のサラウンド作品です。
ポップス、ロック系２作品は、プログラムにマッチしたクオリティの高い、5.1chサラウンドの音創りがなされており、会場の熱気がじかに伝わってくる作品でした。
良い音は感動を呼ぶと言いますが、それを強く思いました。

さて、優秀賞を受賞されました小野 良太さんの作品
「ハイドン：チェロ協奏曲第１番ハ長調 Hob.VIIb-1 第２楽章 Ⅱ.Adagio」
指揮：小澤 征爾　演奏：水戸室内管弦楽団 チェロ独奏：宮田 大
Dolby Digitalの5.0　リニアPCMの5.0　Sf96kHz 24bitの作品です。

聴いてまず思う事は、美しい弦とアンサンブルの心地よさです。そして、ソロの宮田 大さんの存在感です。
録音に作為的なものはなく、バイオリン、ビオラ、セロなど、各楽器が非常にナチュラルで透明感があり、それらが美しいアンサンブルを創り出しています。
ソロのチェロは、生き生きとして純度が高く、オケとの距離感もよく、その場にいるような臨場感のある サラウンドサウンドです。
小野さんが作品に対して常に目指しているという、「音の瑞々しさと空気感を損なわず、且つ、演奏の美しさとダイナミズムを如何に表現するか」という課題を正に実践

して、小沢 征爾さん指揮のもと水戸室内管弦楽団がホームで行った名演を見事にとらえた、優秀賞にふさわしい作品です。

これは、受賞された小野さんの音楽に対する「深い想い」と「確かな技術力」の賜物と言えます。
小野さんを始め受賞された皆様　おめでとうございます。

今回応募された3作品は受賞されたハイドン・チェロ協奏曲は勿論ですが、他の2作品も多くの方に聴いて頂きたい優れた作品で有る事をご報告して、終わります。

＜部門D　放送メディア＞

（社）日本音楽スタジオ協会
相談役 淺見 啓明

部門D　放送メディアの審査員を代表して講評を述べさせて頂きます。
今回の応募作品数は、ラジオの作品が6点、テレビのステレオが12点、サラウンド作品が9点の計27作品で、これまで最も多い応募数であり、全作品が大変高水準の出来栄えで、採点に苦労させられるという、嬉しい状況でした。

まず、今回、優秀賞を受賞された　NHK金沢放送局のFMラジオ番組「ブラボー！　オーケストラ」より　ハイドンの交響曲第55番　変ホ長調

指揮は、下野 竜也さん　演奏はオーケストラ・アンサンブル金沢
ミキシング・エンジニアが水野 友晴さんの作品は、小編成のオーケストラとホ―ムグラウンドである現地ホールの組み合わせで、絶妙な空間の存在を感じさせるオーケストラ・サウンドを作り出していました。
４本のメインマイクと2本のアンビエンスマイクを主体として、会場の空間情報を過不足なく、あくまでも音楽的表現とのかかわりを大切にされた点で、録音の評価は高いものになっています。
ともすると空間的な響きが、楽器の定位やディテールをあいまいにしがちなものですが、補助マイクを使うことによって、この点を見事に解決しておられます。
ブリリアントな音色、アクセントのあるバランスで、ホール音響を活かし切った2チャンネルの王道を行く素晴らしい録音でした。

続いて、フジテレビのHDTV・ステレオ番組「僕らの音楽」より 藤井 フミヤさんの唄で「Life is Beautiful」
ミキシング・エンジニアは、中村 峰子さんの作品です。
澄み渡ったステレオ空間に浮かび上がる藤井 フミヤのソロは、オープニングから引きこまれるような音の深さがあり、大変にナチュラルで、さりげないピアノの音色と絶妙なボーカルとのバランスで、心に響くほのぼのとした空間を感じさせられました。
また、アンサンブルが加わって全体が高揚してくると音場の色彩感が感じられ、映像の効果とも相まって、大変に美しくまとめあげられた作品でした。

最後は、最優秀賞を受賞された長野朝日放送のHDTV・5.1ch番組「2011サイトウ・キネン・フェスティバル松本」より チャイコフスキー交響曲第4番の第4楽章　サラウンドの作品です。

指揮　ディエゴ・マテウス　演奏　サイト・キネン・オーケストラでミキシング・エンジニアはおなじみの岩井 和久さん、今回は3回目の受賞で、見事に最優秀賞を受賞されました。おめでとうございました。

曲自体もサラウンド音響の表現に大変になじみやすい作品ですが、見事なサラウンドの音処理で、オーケストラのサウンドをもり立てておられました。

良い録音は、良い素材と優れた技術の出会いから始まると思いますが、今回、特に両者がマッチングした優れた作品でした。

サイトウ・キネン・フェスティバルは、日本プロ音楽録音賞に毎回応募していただいておりますが、年ごとに違った切り口で、録音の巧みさと演奏の見事さを見せられており、特に今回は、スケール感、ディテール、音響的構成美が際だった作品でした。

先日発行された放送技術誌12月号に、「2012サイトウ・キネン・フェスティバル」について、岩井さんが書かれたこれまでのご苦労話を読ませていただきましたが、来年も、リヒャルト・シュトラウスのアルプス交響曲を聴かせて頂くことを楽しみにしております。

＜ベストパフォーマー賞＞

一般社団法人 演奏家権利処理合同機構MPN
理事長 椎名 和夫

このボブ・ジェームスさんの「Alone」という作品をご紹介するときに、この作品が「CRYSTAL DISC」すなわちガラスでできたCDで発売されたものであるという点についてお話をしなければならないと思います。従来のCDというのはポリカーボネイトという樹脂で出来ているわけですけど、この作品のCDはガラスで出来ていまして、落とすと割れてしまいます。そのガラスという素材の透明度を利用し、且つその反射膜も従来のアルミ蒸着ではなくて、銀の膜を使っていたりということで、音的にも非常に透明感のある仕上がりになっていると思います。

釈迦に説法でございますけれど、こうしたメディアの変遷というのが、SP盤から始まって、EP、LP、それからCDときているわけですね。そして配信へと進んでいく中で、様々にそれに影響を受ける形で音楽というものも変遷してきていて、録音技術も一発録りのワンマイクによるレコーディングからマルチレコーディングときて、それからDAWと言うんですか、Pro Toolsというような、デジタル上ですべてを処理してしまうという風なところに様々進化をしてきて、そういう進化が音楽のスタイルにも様々な影響を与えているんですが、この作品は、そういう何か、いろいろある理屈、蘊蓄をすべて無にするほど圧倒的な透明感のある、すばらしい作品だったのではないかと思います。

僕はエンジニアではないので詳しいことはわからないのですが、音圧というか、音像も太い感じになっていると思うし、一番すごいのは、ピアノの音が和音で伸びていくときの濁りというものがまったく感じられない、すばらしい作品になっていると思います。

実はこのボブ・ジェームスさんも長いキャリアの中で、プロデュースというようなことを主にやられてきたということで、もちろん自分もプレーなさるんですけれど、ソロのピアノのアルバムを出すということは実はやられたことがなくて、このガラスCDというものへの興味が後押しをして、ボブ・ジェームスさんにこの作品を作らせた、ということのようです。

技術が巡り巡って、ミュージシャンにインスパイアを与えていくという創造のサイクルといいますか、そういう意味でとても象徴的な作品だったのではないかという風に思っています。

ボブ・ジェームスさんのキャリアについては、パンフレットにいろいろ書いてございますので、もうここでは割愛をいたしますが、一番直近では1991年にネーザン・イースト、ハーヴィー・メイソンなんかと一緒に「Four Play」というグループを作られまして、今年の東京JAZZでは皆さんご承知かと思うんですけど、松田 聖子さんと一緒にコラボレーションされたりしております。

それから、この作品を語る上でもうひとつ忘れてはならないのが、プロデューサーの伊藤八十八さんの存在です。ボブさんにこのガラスCDのことを伝えて、是非やろうよという声を掛けたのが伊藤さんでありまして、この作品を生み出すきっかけを作られた方といっていいと思います。この伊藤さんは、僕ら日本人のミュージシャンにとっても父親のような存在といいますか、ジャズ、フュージョン系の畑にありながらJ-POPなんかも手掛けておられまして、ソニーにずっといらしたんですが、あの乃木坂のソニースタジオを手掛けられた方でもあります。僕等ミュージシャンにとってはとても大切なプロデューサーのお一人ですが、その伊藤さんを含めて、この作品の制作に関与された方々全てにこの賞を差し上げたいと思っております。

本日はおめでとうございました。

＜新人賞＞

（社）日本音楽スタジオ協会
会長 内沼 映二

まず、作品　「Home」より「Deep Impact」

J-JAZZピアニストとして大変人気があるミュージシャンである村井 秀清さんのアルバムです。村井さんはコンポーザとして数多くのテーマ曲を提供している方で、NHKの『プロフェッショナル』や『世界ふれあい街歩き』などがあります。

ミキシング・エンジニアは（有）アルデバラン（クレッセントスタジオ）の今関 邦裕氏。サウンドは、編成の大きなジャズ、フュージョン系のタイトでスケール感がある音創りがなされています。今関さんはまだ30歳と若いエンジニアですが、感心したのは生楽器の収録技術の基礎がしっかりしている事と、基本に忠実であることです。

若いエンジニアにとって、このような大編成のエンジニアリングができる環境は非常に少ないのが現状です。数少ない機会を見事に克服し、表現しています。自分なりの個性が演出出来ると、より高い評価が得られるのではないかと思います。

将来が楽しみなエンジニアです。

作品　「RADIO STAR HEROES」より「雨に泣いている」duet with 柳ジョージ 鈴木 聖美

アーティストは皆さんよくご存知の鈴木 聖美さんと柳 ジョージさんのデュエットです。

ミキシング・エンジニアは（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズの村上 宣之さんです。

サウンド創りは、J-POPのなかでも上品で完成度の高い創りになっています。打ち込みのドラムサウンドは生ドラムに非常に近い空気感豊かな音創りがなされています。

私が感心したのは、デュエットであるのですが、柳 ジョージさんと鈴木 聖美さんの声は日本人としては倍音、高調波成分が非常に多いアーティストです。

今流行のハイ上がりの音創りですと、聴きづらく、歪感が誇張されるのですが、村上さんのボーカルの音創りは、本人の特徴を欠落させず、伸びやかな倍音がありながら非常に聴きやすいミックスになっています。

今年からこの新人賞がスタートしたわけですが、やはり、技術的な部分で基礎がしっかり出来ているエンジニアはどのような場面に遭遇しても無難に処理できると思います。

音楽感性とともにより精進していただき、これからの日本音楽文化、音楽産業の核になっていただきたいと思います。

＜2chオーディオファイル部門賞＞

今年度、新たに２chオーディオ・ファイル賞を顕彰致しました。

高音質（ハイレゾ音源）による音楽配信、及びUSBやDVDメディアを使った高音質音楽ビジネス化の動きがここにきて急速に動き出しており、日本プロ音楽録音賞運営委員会としてハイレゾ音源（ファイル音源）の審査検討を致しました。

結果として今年度は実験的スタンスで高音質配信（ファイル化音源）音源を審査対象とし、2chオーディオ・ファイル賞を新たに顕彰致す事と致しました。

ビクターエンタテインメント株式会社
サウンド・プロデュサー 高田 英男

応募総数　９作品

96kHz/24bit 5作品、 176.4kHz/24bit 1作品、DSD音源2作品　44.1kHz/16bit 1作品

募集に当たりe-onkyo music 様　クリプトンHQM STORE様　リットーミュージック様のご協力を頂き、有難う御座いました。

2chオーディオ・ファイル賞

・作品　「クラヴィオルガン・ワンダーランド」より「J.S.バッハ：トッカータとフーガ　ニ短調　BWV565」　アーティスト　クラウディオ・ブリツィ
（株）クリプトンより発売
ミキシング・エンジニア：髙島 靖久（株)カメラータ・トウキョウ
録音フォーマット　176.4kHz/24bit

審査会場では分からなかったのですが、「クラヴィ・オルガン」と言ってチェンバロとオルガンの複合楽器による演奏です。
録音はイタリアのホールにて録音されており、繊細なチェンバロと荘厳なオルガンによるアコースティックサウンドです。
チェンバロという楽器は繊細な音色を想像致しましが、実際は弦をはじくゴツゴツした音も入り強い音色を持つ楽器であります。
その為、中々繊細な感じでの音創りは難しい楽器ですが、沢山のホール録音及びスタジオでアコースティック録音を経験している高島 靖久さんにより素晴らしい音場空間によるアコースティックサウンドが創られています。
素直に伸びた周波数帯域・高解像力。艶のある音色など、ハイレゾ音源ならではの魅力あるサウンドに仕上がっていると感じました。

纏め
今回 9 作品の中で 8 作品は小編成でのアコースティック録音であり、けして無理な音創りが無く、素直な楽器（唄）の音色感・豊かな音場感・など私自身録音エンジニアとして音創りの基本をもう一度考える審査となりました。
来年度、更にハイレゾ音源による音楽制作が広がり、音楽ビジネスの活性化と良い音質による音楽感動体験が広がる事を望んでおります。

髙島 靖久さん、本日は本当におめでとう御座いました！

「音の日のつどいパーティー」レポート

平成24年12月６日（木）「音の日」記念イベントとして、18：00よりアジュール竹芝13Ｆ「飛鳥の間」に於いて、当協会および一般社団法人日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPNの共催により、第19回日本プロ音楽録音賞授賞式関係者と当日併行して開催された 一般社団法人日本オーディオ協会主催の「CD30周年記念式典」、「創立60周年記念式典」、「音の匠顕彰式」関係者が参加した「音の日のつどいパーティー」が開催された。

（社）日本音楽スタジオ協会
内沼 映二 会長

経済産業省 文化情報関連産業課
課長補佐 望月 孝洋 氏

当日の模様を以下にレポートさせていただきます。

最初に 当協会・内沼 映二会長より来場者に対して開会の辞が述べられ、続いて来賓代表として経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課課長補佐 望月 孝洋氏が挨拶された後、一般社団法人日本レコード協会理事・畑 陽一郎氏により乾杯の発声が行われた。

30分程経過したところで、プロ音楽録音賞授賞式の司会者「石川 みゆき」さんの進行により、第19回日本プロ音楽録音賞に於いて表彰された各部門34名の受賞者を代表して、最優秀賞に選ばれた代表エンジニア３名、ベストパフォーマー賞および新人賞２名のインタビューが行われた。

（一社）日本レコード協会
理事・畑 陽一郎 氏

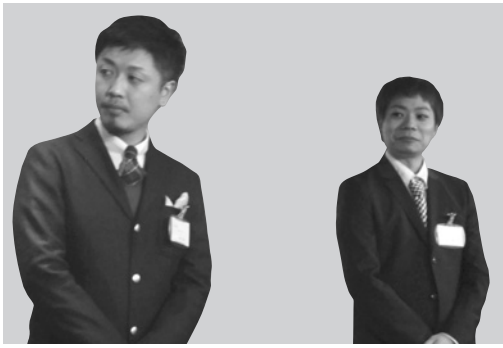
部門A　「2ch パッケージメディア（クラシック・ジャズ等）」
　　秋元　秀之 氏　ビクターエンタテインメント（株）ビクタースタジオ
部門B　「2ch パッケージメディア（ポップス・歌謡曲等）」
　　高山 浩也 氏　（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
部門D　「放送メディア」
　　岩井 和久 氏　長野朝日放送（株）
ベストパフォーマー賞（Bob James氏代理）
　　鈴木 浩二 氏　（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
新人賞　今関 邦裕 氏　（有）アルデバラン
　　村上 宣之 氏　（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

部門A「2ch パッケージメディア
（クラシック・ジャズ等）」
秋元 秀之 氏
ビクターエンタテインメント（株）

部門B「2ch パッケージメディア
（ポップス・歌謡曲等）」
高山 浩也 氏
（株）ソニー・ミュージック
コミュニケーションズ

部門D「放送メディア」
岩井 和久 氏
長野朝日放送（株）

ベストパフォーマー賞
（Bob James氏代理）
鈴木 浩二 氏
（株）ソニー・ミュージック
コミュニケーションズ



今関 邦裕 氏
（有）アルデバラン

村上　宣之 氏
（株）ソニー・ミュージック
コミュニケーションズ

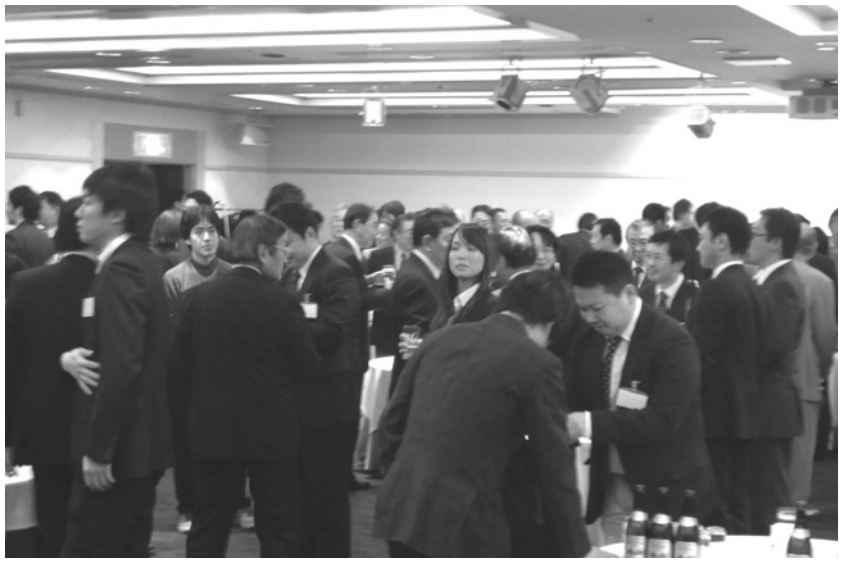
代表者 6 名のインタビューが終了した後、本年度の「音の匠」として顕彰された内容が以下の通り紹介された。

第17回にあたる本年度は、福祉工学を活用することで健常者だけでなく聴覚障害にある人々にも的確に警報を伝えて迅速かつ着実な避難行動につながる緊急地震速報を開発された伊副部 達氏を「音の匠」に、また歴史的な蓄音機を多数収集し、それらを一般展示するとともにロウ管やSPレコード音源を当時のまま再生することで音楽オーディオの奥深さを伝える活動をされている八日市屋 典之氏を「音の匠特別功労賞」として顕彰されました。

「音の匠」受賞者

2012年度「音の匠」
伊副部 達 氏　東京大学 高齢社会総合研究機構・特任研究員
2012年度「音の匠特別功労賞」
八日市屋 典之 氏　金沢蓄音機舘館長

「音の匠」が紹介された後は再び歓談タイムとなり、会場内では受賞者を取り囲んでの写真撮影や談笑する場面が見受けられ、今年も様々な音のプロフェッショナルな方々が一同に会する場となりました。



最後に中締めの時間となり、一般社団法人日本オーディオ協会・校條 亮治会長より、参加者に対して御礼の挨拶が述べられた。

今回もプロ音楽録音賞の運営委員会および審査委員の皆様をはじめ、多くの関係者のご協力により、第19回目を無事に終了することが出来ました。有難うございました。

（一社）日本オーディオ協会
校條 亮治 会長

会　員　動　向

1．会員数（平成25年１月１日現在）

正会員（法人）	25法人	正会員（個人）	20人
賛助会員Ⅰ	41法人	賛助会員Ⅱ	２法人

2．入会

①個人正会員

○高田　英男　　平成24年７月１日付

②賛助会員Ⅰ

○ヒビノインターサウンド株式会社　　平成24年８月１日付

○株式会社オーディオテクニカ　　平成24年９月１日付

○ゼンハイザージャパン株式会社　　平成25年１月１日付

3．退会

①法人正会員

○株式会社FREE PEOPLE　　平成24年７月31日付

②個人正会員

○香田　泰信　　平成24年７月31日付

4．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○会員代表者変更

株式会社　音響ハウス

（旧）田中　誠記

（新）和田　優治（取締役）

○代表取締役変更

株式会社サウンドインスタジオ

（旧）平井 文宏

（新）伊藤　和明

○ビル名変更

株式会社フリーマーケット

（旧）〒106-0031 港区西麻布1-8-8　ジェイリート 3F

（新）〒106-0031 港区西麻布1-8-8　Barbizon89 3F

○オフィス移転

株式会社バーニッシュ

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1　キャロットタワー18F

TEL：03-6450-7281　FAX：03-6450-7291

平成24年12月３日業務開始

②個人正会員

○連絡先変更

脇田　貞二

東放学園音響専門学校

〒160-0023 新宿区西新宿4-5-2　東放学園新宿研究所3F

TEL：03-3378-6861　FAX：03-3378-6859

○住所変更

亀川　徹

〒167-0043 東京都杉並区上荻4-11-10
TEL/FAX：03-6913-7077

③賛助会員

○協会担当者変更
学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ専門学校
（旧）和田　伸一
（新）串間　司（協会担当者）
　　咑崎　範宏（専門学校委員会担当者）

○代表取締役変更
ＳＦＩリーシング株式会社
（旧）神岡　晴夫
（新）横田　真理也

○協会担当者変更
株式会社タイムロード
（旧）黒木　弘子
（新）入澤　麗子

○学校長変更
学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷
（旧）小達　一雄
（新）山本　敬史（学校長）
　　池村　雅彦（キャリアセンター・副校長）

○役員変更
高橋建設株式会社
代表取締役会長　髙橋　光男（前取締役社長）
代表取締役社長　依田　昭生（前常務取締役）
専務取締役　　髙橋　厚志（前取締役営業統括部長）

5．その他

○役職変更
株式会社エス・シー・アライアンス
鈴木　輝一氏
（旧）代表取締役会長
（新）顧問

○事務局長変更
日本音楽家ユニオン
（旧）福見　吉朗
（新）土屋　学

○団体名変更
（旧）演奏家権利処理合同機構 MPN
（新）一般社団法人 演奏家権利処理合同機構 MPN　　平成24年６月１日付

○理事長変更
社団法人全日本テレビ番組製作者連盟
（旧）中尾　幸男
（新）倉内　均（(株)アマゾンラテルナ代表取締役社長）

○会長変更
一般社団法人日本映画テレビ技術協会
（旧）早川　洋

（新）会長　　島谷　能成（東宝（株）代表取締役社長）
　　副会長　北出　継哉（(株）イマジカ・ロボット ホールディングス取締役）
○役員変更
dts Japan株式会社
（新）代表取締役会長　Brian Towne（本社COOならびにEVP兼務）
　　代表取締役社長　小玉　章文
　　取締役副社長　　仁戸田　一之
○会長・事務局長変更
一般社団法人日本ポストプロダクション協会
（旧）鈴木　泰助（会長）
　　稲垣　正雄（事務局長）
（新）広岡　淳利（会長）
　　緒形　　京（専務理事・事務局長）
○会長変更
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
（旧）山崎　芳人
（新）会長　　中西　建夫（(株）ディスクガレージ）
　　副会長　伊神　　悟（(株）サンデーフォークプロモーション）
　　常務理事・事務局長　山本　幸治
○役員変更
AES日本支部（2011.9～2012.8）
支部長　　西村　　明（東京情報大学）
副支部長　山崎　　淳（タックシステム（株））
事務局長　鈴木　弘明（(株）ソナ）
○会長変更
一般社団法人日本作詞家協会
（旧）会長　湯川　れい子（名誉会長）
（新）会長　里村　龍一
○事務局長変更
一般社団法人日本音楽事業者協会
（旧）山崎　博司
（新）安倍　昭彦
○本社移転
音響特機株式会社　　業務開始日：H24.8.6～
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町10-1 CSSビルディング三階
TEL：03-3639-7800　FAX：03-3639-7801
○役員変更
株式会社EMIミュージック・ジャパン
（新）代表取締役会長　　行方　　均
　　取締役COO/CFO　足立　正人
前代表取締役社長兼CEO　市井　三衛氏は退任
○事務局長変更
一般社団法人日本音楽制作者連盟
（旧）緒方　庶史
（新）金井　文幸
○退社
新田　和長

ドリーミュージック、ドリーミュージックパブリッシング、ドリーミュージックアーティストマネージメント３社の取締役を８月31日付けで辞任し退社

○移転

株式会社エス・シー・アライアンス世田谷オフィス

（旧）永山オフィス

〒206-0025 東京都多摩市永山6-22-6

サウンドクラフトライブデザイン社　TEL：042-389-1191　FAX・042-389-1193

アルテ社　TEL：042-389-1192　FAX：042-389-1193

○事務局長変更

日本フイルムラボ協会

（旧）松尾　誠一（(株）ヨコシネディーアイエー）

（新）榎本　正男（東映ラボ・テック（株）常務取締役 営業部門統括）

○移行

（旧）日本シンセサイザー・プログラマー協会

（新）一般社団法人日本シンセサイザー・プログラマー協会

（平成24年10月１日付）

代表理事　松武　秀樹

○移行

（旧）社団法人日本作曲家協会

（新）公益社団法人日本作曲家協会

○会長変更

社団法人日本作曲家協議会

（旧）小林　亜星（顧問）

（新）松下　功

○オフィス移転

dts Japan株式会社

〒163-1439 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティビル39F

TEL：03-5363-1820（代表）　FAX：03-5363-5835

平成24年11月19日業務開始

♪　編　集　後　記　♪

2013年 明けましておめでとう御座います。
政治・経済は相変らず混迷と停滞を繰り返し、自然界の偉大さには驚くばかりの事象が続く中、今年は私たちにとってどんな年になるのでしょうか・・・。
どうか平穏・平和な一年でありますように・・・。

うさぎ

JAPRSは、本年24周年を迎えることとなりますが、この一年、会員の皆様にとって幸多き年になることをお祈り申し上げます。

hair ken short

新年明けましておめでとうございます。アッという間の１年でした。歳をとるにつれ月日の早さを感じます。今年も皆様が幸ある１年になりますように。

yakiton

明けましておめでとうございます。新たな気持ちで少しずつでも前進して行けたらと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

mm

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 運　営　委　員　会 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委 員 長　広岡　淳利（音響ハウス）
委　　員　佐藤　賢一（事務局）
〃　　山本　　薫（　〃　）
〃　　伊東　真奈美（　〃　）

＊＊＊

【発行人】 会　長　内　沼　　映　二　　【発　行】 2013年（平成25年）１月
【発行所】 社団法人 日本音楽スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　モナーク大久保３Ｆ
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【編　集】 運　営　委　員　会　　【印刷所】 株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp